

【イスラエル】復興ありがとうホストタウン 巨理町の取組

1 「ホストタウン」登録又は「復興ありがとうホストタウン」決定・登録に至るまでの経緯

東日本大震災直後よりエリ・コヘン元駐日大使をはじめ、イスラエルからの物心両面での多大なる支援に対し、イスラエル政府及び関係者等へ感謝の意を伝えるとともに、イスラエルとの交流を深化させていくため、2018年1月5日「復興『ありがとう』ホストタウン」に登録を行う。

2 交流計画の概要

巨理町は、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を地域アピール及び復興状況を発信できる機会と捉え、イスラエル関係者及び選手の交流を通じ、住民によるイスラエルとの人・教育・文化・スポーツなどの国際交流促進により、交流人口を拡大し地域の活性化や人材育成を図る。

交流にあたり、NPO法人セリアの会が主体となり、町内に建設予定の「メノラー国際リーダーシップセンター（研修施設）」を活用し、イスラエルとの交流をはじめとする国際交流をまちづくりの柱とし、子供たちへ世界の音楽や習慣、言葉などの文化を伝える。

更には、リーダーシップ養成プログラムを構築し、学生や海外経験者受け入れ、国際交流ボランティアの育成を図り、交流を推進する。

3 これまでの取組、今後行おうとしている取組

(これまでの取組)

○「はぁと・ハート事業」の開催（2014年～）

イスラエル政府から被災地支援を託されたチーム「イスラエイド」が、本町へ支援物資を届けるほか、NPOセリアの会による被災者・児童・生徒を対象とした、絵や音楽を通じた、心をほぐす芸術ワークショップを開催。イスラエル大使等も町に訪問し参加。

○イスラエル文化・スポーツ省と協定締結（2018年2月）

イスラエル文化スポーツ省、外務省及びイスラエルオリンピック委員会を訪問し、被災地支援に対する御礼を行うとともに、「復興『ありがとう』ホストタウン」決定の経緯・経過の説明、大会後の当町への選手等派遣を含めイスラエルとの交流に

対する協力要請・協定締結を行う。



【外務省・文化スポーツ省】



【日本・イスラエル記念式典】

(今後行おうとしている取組)

【大会前】

- ①駐日大使館職員を招き、小中学生を対象に、交流国の歴史・文化を学習する特別授業を開催
- ②イスラエルの国際的著名なシェフの来日に併せ、住民交流や郷土料理（はらこめし）づくりによる食文化交流
- ③町主催イベント時に、交流国の文化・歴史・食を紹介するブースを出展

【大会中】

- ①応援ツアーを計画し、亘理町民が競技会場でイスラエル選手を応援
- ②柔道、水泳競技選手及びオリンピック関係者を招いた激励会を開催

【大会後】

- ①柔道、水泳競技選手及びオリンピック関係者を招いた慰労会を開催
- ②イスラエル関係者と住民による復興の発信、交流事業を開催

4 今後の取組への課題，国等への要望

- ・ 交流国の参加種目、選手の情報提供
- ・ 応援ツアーのチケット確保（時期・予算）